Accademia filarmonica international Association presents

村中大祐指揮　オーケストラ・アフィア第２回演奏会

「自然と音楽」演奏会シリーズ
Nature and Music Vol.2

「満月に寄す」
Mondnacht

2013 年 10 月 18 日（金）
東京築地　浜離宮朝日ホール
19 時開演

ゲスト・コンサートマスター
ロベルト・バラルディ
（ヴェネチア・フェニーチェ歌劇場）

モーツァルト：嬉遊曲二長調 K.136
シェーンベルク：「浄められた夜」（弦楽合奏版）
メンデルスゾーン：弦楽八重奏曲　変ホ長調　作品 20（弦楽合奏版）

ご協賛企業ご芳名（敬称略）

（株）ROYAL DIAMOND
上野トランステック株式会社
杉山商事株式会社

ご協賛個人ご芳名（敬称略）

上林武志

企業メセナ協議会 助成認定活動

村中大祐による「自然と音楽」演奏会シリーズは 公益社団法人 企業メセナ協議会の助成認定事業です。

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C009309
リサイクル適性Ⓐ この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
GREEN PRINTING JFPI P-B10164
VOC FREE™
FSC® 森林認証紙にノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）など、印刷資材と製造工程が環境に配慮されているグリーンプリンティング認定工場で製造されています。また、読みやすさに配慮したフォントが使用されています。
Printed & Designed by Ohkawa printing Co.,ltd

企業メセナ協議会 助成認定活動

海、そしてゲーテの見たもの。

オーケストラ・アフィア 第1回演奏会

「自然と音楽」演奏会シリーズ
Nature and Music vol.1

指 揮： 村 中 大 祐
Conductor: Daisuke Muranaka

オーケストラ・アフィア
Orchestra AfiA

後援： 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション

2013 年 7 月 16 日（火） 19：00 開 演
浜離宮朝日ホール　主催 AfiA Office アフィア事務局

Introduction

鎮守の森から記憶の森へ

ぼくが幼いころ
そこには木々が鬱蒼としげる森があった
氏神様でもある八幡宮の御神体としてこの森は四方に広がり
ぼくらはそこでカブトムシやクワガタを取り
野鳥を追いかけまわして遊んだ
時には蜂の巣を攻略してスズメバチに追い回されたり
ザリガニ釣りをしてその沼から
100 尾以上の大漁となったこともある

森はそんなひとの記憶と繋がっている
長い年月に亘り培われた記憶は、自然の奥底に沈殿し
世代を経て豊かに育ち、それがやがてあらたな森となってゆく
森には世代を超えた人々の日々の暮らしの記憶が納められ
その森に住むひとたちは
森のなかからかつての記憶を引き出してきたのだと思う
そしてその記憶は親から子へと
代々歌い語り継がれてきた

ぼくがローマのトゥスコルムで眺めた風景は
数千年前のエトルリア人がみていたものだ
同じ風景をゲーテが「イタリア紀行」に書き記し
これをあのモーツァルトやメンデルスゾーンも
見ていたに違いない
音のなかに見えてくるそんな記憶の風景を
ぼくは伝えてみたかったんだ

2013 年 7 月　村中大祐

Program

メンデルスゾーン：「フィンガルの洞窟」序曲　作品 26
F.Mendelssohn Bartholdy: Hebrides Overture Op. 26

1829 年、20 歳となった**フェリックス・メンデルスゾーン・バルトロディ**（1809 ～ 1847）は、ロンドンで交響曲第 1 番ハ短調の初演を成功裏に終えると、文豪シラーの傑作「マリア・ストゥアルダ」の舞台、スコットランドへと足を伸ばします。そこで皇女マリア戴冠の地の廃墟を前に、交響曲「スコットランド」冒頭の物悲しい旋律が生まれたことは、とても有名な話です。続いてヘブリディーズ群島（英語：Hebrides）を訪れたメンデルスゾーンは、無人島スタッファの洞窟に打ち寄せる波が、自然の作り上げた大聖堂に暗く響き渡る様子から霊感を得て、「フィンガルの洞窟」を生み出した、ということになっていますが、実はこの序曲全曲が書き上げられたのは翌 1830 年の秋、イタリア・ローマ滞在中でのことでした。尊敬する恩師ツェルターのゲーテに宛てた手紙には「フェリックスはどこに行くよりも先に、まずイタリアに行くべきです。」とあるように、翌 1830 年、21 歳 の メンデルスゾーンは、ゲーテの「イタリア紀行」さながら、芸術の都・ローマ巡礼の旅へと、大陸縦断をスタートさせるのです。

傑作「イタリア紀行」を読むと、ゲーテがローマという街に長期間逗留したその毎日の様子が、克明に描き出されています。ゲーテの崇拝者でもあったメンデルスゾーンのローマ滞在期間も長期にわたり、本日演奏される「フィンガルの洞窟」や「ワルプルギスの夜」などの傑作を次々と完成させて行きます。

この序曲「フィンガルの洞窟」のローマ初稿版が完成した当初、その標題は「寂しい島」でした。この後 2 度ほど書き直されて、今夜お聴き頂く第 3 稿が出来上がります。作品冒頭からミステリアスな海の表情が全面に押し出され、海の静けさや荒れ狂う波に、時折渡り鳥たちの鳴き声がこだまして、それはまるでターナーの描く風景画を彷彿とさせます。
思えばメンデルスゾーンもゲーテと同じく、旅行滞在中に数多くの風景画を残しましたが、メンデルスゾーンが描いた「音の絵」から、リアルな「海の情景」をイメージできることは、この曲を聴く上でのひとつの醍醐味だと思います。

モーツァルト：交響曲第 36 番ハ長調 K.425「リンツ」
W.A. Mozart: Symphony No.36 C major K.425 "Linz"

第 1 楽章 Adagio ～ Allegro spiritoso
第 2 楽章 Andante
第 3 楽章 Menuetto
第 4 楽章 Presto

1781 年、25 歳の**ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト**（1756 ～ 1791）は、雇い主の大司教のザルツブルク帰還の命に背き、ウィーンでの独立を宣言します。彼は、アカデミー（音楽会）の開催や、裕福な子弟の個人教授で生計を立てますが、ザルツブルクの父レオポルドは、大司教に歯向かった息子の仕業が、もはや息子だけの問題では済まされないことを肌で感じていました。さらに婚約者コンスタンツェが息子に相応しいとは思えず、益々父子関係は冷え切っていくのです。それからしばらくして、結婚したヴォルフガングは、「父の妻に対する偏見を打破する」ためザルツブルクへと旅立ちます。ところがこの間、父のコンスタンツェに対する見方は変わらないばかりか、姉のマリアンネと妻の馬が合わないことから、兄姉の仲までおかしくなる始末。おまけに妻の機嫌は悪くなる一方でした。

3 ヶ月父の元に逗留したモーツァルト夫妻は、ウィーンへの旅の途中、リンツを訪れます。そこでトゥーン伯爵の屋敷に招かれ、5 日後に催されるアカデミーで、急遽交響曲の演奏を依頼されます。手元に交響曲の楽譜がないことから、「心臓が口から飛び出そうなほどの勢いで」作曲を始めたモーツァルトが、わずか 4 日間でこの交響曲「リンツ」を書き上げたというのは、まさに天才の仕業と言えるでしょう。驚くべきはその完成度の高さです。ほんの数日間で書き上げられたとは思えない程の筆致の正確さと、全体のバランスの美しさは、モーツァルトの数ある作品の中でも最も愛される交響曲のひとつとなっています。

メンデルスゾーン：交響曲第 4 番イ長調作品 90「イタリア」
F.Mendelssohn Bartholdy:Symphony No.4 A major Op.90 "Italian"

第 1 楽章 Allegro Vivace
第 2 楽章 Andante con moto
第 3 楽章 Menuetto
第 4 楽章 Saltarello

メンデルスゾーンの自作に対する批判的な態度は、一生を通じて変わることがなく、「フィンガル」と同じくローマで曲想を得たと言われる**交響曲第 4 番「イタリア」**についても、 2 つの全く違う版が存在しています。本日演奏いたしますのは、ロンドン初演当時批評家が「時代を越えて存在し続ける作品」と高く評価した、有名な初稿版（1833 年稿）です。メンデルスゾーン自身も交響曲「イタリア」のロンドン初演が「過去最高の出来だという評判」であることを、ベルリンの家族に伝えてはいるものの、実際には「かなりの誤り (errata) があって修正を要する」と考えていました。事実、この初稿版はメンデルスゾーンの死後出版されますが、それは彼がこの世を去るまで、この作品に修正を加えていたからなのでしょう。ところが修正された 1834 年の第 2 稿の方はと言うと、多くの音楽家や学者からの評価も低く、2001 年まで出版の日の目を見ることはありませんでした。

交響曲第 4 番「イタリア」の**第一楽章**冒頭には、地中海の突き抜けるような青空を思わせる爽快感があります。提示部で示される多くの材料は、まるでピアッツァ（広場）に集まる人々の喧騒のようです。でも展開部に入ると気分は一転します。にわか雨にやられた人々が、慌てて広場から走り去るような情景とでも言うのでしょうか。一つ一つの主題が折合い重なり合い、それが大雨を呼び、やがて小雨に変わったところで、オーボエが一筋の太陽の光を表現すると、どこからともなく広場に人々が舞い戻ってくるのです。ここでは音が「街」の様子を語ります。音楽によるロマンティシズム、それは文学より遙かに遅れて登場しますが、「街の音」、そして「自然の情景」がそのテーマとなって行くのです。

モーツァルトの歌劇「魔笛」がその原型だと言われる第 2 楽章アンダンテ。更に遡るなら、バッハの平均律ピアノ曲集の有名なロ短調前奏曲を想起させます。バチカンの聖ピエトロ大聖堂前を歩く、礼服を身に纏った修道士の一群の歩みのようなこの音楽。祈りの荘厳さの中に笑顔や冗談も交えた「イタリア流」のヒューマニズムを感じます。

第 3 楽章のテーマは心地よい「そよ風」。モーツァルトの歌劇「コジ・ファン・トゥッテ」の舞台でもある港町ナポリで、三重唱「Soave sia il vento そよ風の心地よさ」と謳われる、まさにその情景です。この交響曲冒頭の手稿がナポリ音楽院の図書館に所蔵されているというのも、その証と言えるでしょう。

終楽章サルタレッロ。有名なタランテッラにも似たナポリ民謡の舞曲スタイルです。不思議なのは、本来明るいはずのサルタレッロがなぜ短調なのか？ということ。メンデルスゾーンの描き出す「音の陰影」には、こういった問いに対する答えがぎっしりと詰まっていて、それはまるでローマの街中に点在するカラヴァッジョ作品の「光と影」のようです。

Profile

指揮者

村中大祐
Daisuke MURANAKA

©Tetsuro Goto 後藤鐵郎

村中氏は近年「横浜オペラ未来プロジェクト」を横浜開港150周年のために成功させ、また横浜OMPオーケストラを創設して脚光を浴びた。東京外国語大学ドイツ語学科を卒業後、ウイーン国立音楽大学で指揮を学び、トーテイ・ダル・モンテ国際オペラコンクール指揮部門「ボッテーガ」と第1回マリオ・グゼッラ国際指揮者コンクールで、いずれも第1位を獲得。フルトヴェングラーの高弟Peter Maag（ペーター・マーク）のアシスタントとして研鑽を積んだ後、ウイーンを拠点に、これまでヨーロッパ内外の数多くの歌劇場やオーケストラを指揮してきた。1995年、急病の師ペーター・マークに代わって、公演初日2時間前に急遽抜擢されて、モーツアルトの歌劇「魔笛」を指揮した鮮烈なイタリア・オペラ界へのデビューの後は、ヴェネチア・フェニーチェ歌劇場やテアトロ・マッシモ、英国グラインドボーンオペラ（アジア人初）などに登場している。

1999年からはＮＨＫ交響楽団をはじめとする国内主要オーケストラに招かれ、これまでに第11回出光音楽賞（2001年）、第19回横浜遊大賞受賞（2007年）、三菱東京UFJ芸術文化財団音楽賞奨励賞（2009年）など受賞多数。

2011年からは「自然と音楽」のテーマをライフワークに世界各国で演奏を繰り広げており、同年5月には伊シチリア交響楽団定期演奏会で、「海」をテーマに東日本大震災の追悼コンサートを行っている。

今年から英国のイギリス室内管弦楽団とロンドン・カドガン・ホールで同テーマによる一連の演奏会を指揮する。本年11月はベンジャミン・ブリテンの生誕100周年に寄せて、ブリテンやシェーンベルクの作品を演奏。ソリストはユーリ・バシュメット他。

また日本国内では本年オーケストラ・アフィア（AfiA）を創設し、同テーマで一連の演奏会を行う。今回行われる第1回は「海、そしてゲーテの見たもの」が副題。10月18日（金）に行われる第2回は、同じく東京築地の浜離宮朝日ホールで「満月に寄す」が副題。伊勢神宮、出雲大社の遷宮を祝う意味で、前日17日（木）には相嘗祭に合わせ、鎌倉鶴ヶ丘八幡宮における奉納演奏を行う予定。鶴岡八幡宮の活動の一環として行われている東日本大震災への活動とリンクした、「自然と対峙する人間」をテーマに、神前に奉納する。

これまでテレビ朝日系列「題名のない音楽会」、日本テレビ系列「深夜のコンサート」やNHKFM、NHKBS、NHK教育テレビ、TOKYO FM,FMヨコハマ ,TVKなど、メディアへの出演多数。

オフィシャルサイト：http://muranplanet.com

Profile

コンサートマスター

三浦章宏
Akihiro MIURA

徳永二男氏に師事。1984年筑波大学を卒業し、翌年NHK交響楽団に入団。第25回ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール第2位入賞（1位なし）他受賞多数。1989年アフィニス文化財団の奨学生として、ドイツ・ミュンヘンへ留学、エルネ・セベスティアン氏に師事。

1999年より東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスター。これまでに新イタリア合奏団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー室内オーケストラ、東京フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、神戸市室内合奏団等と共演している。リサイタル、室内楽活動も活発で、ボアヴェール・トリオ、鎌倉芸術館ゾリステン、JTアートホール室内楽シリーズへの度々の出演や、2007年にはヴェーラ弦楽四重奏団を結成、12月に横浜みなとみらいホールで結成コンサートを行った。

2011年6月には東京オペラシティ・コンサートホールにおいて、バッハ、ベートーヴェン、チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を一夜で演奏するリサイタルを開催、2012年6月にJ.S.バッハ無伴奏ソナタ・パルティータ全曲演奏会、2013年4月にピアニスト清水和音氏とブラームス・ソナタ全曲リサイタルを行うなど、多彩で精力的な演奏活動を展開している。国立音楽大学や洗足学園音楽大学で後進の指導にもあたっている。

オーケストラ・アフィア首席奏者

ヴァイオリン
大林修子　Nobuko OBAYASHI

長野県松本市出身。3才よりスズキメソードにてヴァイオリンをはじめる。第50回日本音楽コンクール第3位入賞。第26回海外派遣コンクール松下賞受賞。東京芸術大学卒業。徳永二男、故 田中千香士の両氏に師事。1989年NHK交響楽団入団。

ヴィオラ
安藤裕子　Yuko ANDO

第3回日本室内楽コンクール第1位。第52回ジュネーブ国際コンクール、セミファイナリスト。ヴィットリオグイ国際室内楽コンクール最高位。現在、東京藝術大学、洗足学園、聖徳大学非常勤講師。紀尾井シンフォニエッタ東京メンバー。

チェロ
銅銀久弥　Hisaya DOGIN

齋藤秀雄氏と門下のチェリスト達に師事。桐朋女子高等学校音楽科、桐朋学園大学、同大学研究科にて藤原真理氏、倉田澄子氏、井上頼豊氏に師事。桐朋学園オーケストラ、広島交響楽団のソリストとして共演。読売新人演奏会、広島市新人演奏会出演。1984年　ＮＨＫ交響楽団に入団、1991年　ミュンヘンでW.ノータス氏に師事。現在、NHK交響楽団次席奏者。桐朋学園大学院大学教授、洗足学園大学非常勤講師。

コントラバス
西山真二　Shinji NISHIYAMA

東京藝術大学附属音楽高等学校を経て、東京藝術大学器楽科を卒業。学内にて安宅賞、アカンサス音楽賞、受賞。永島義男、西田直文、石川滋の各氏に師事。現在、NHK交響楽団首席代行奏者。東京藝術大学非常勤講師。

フルート
宮崎由美香　Yumika MIYAZAKI

東京藝術大学首席卒業。同大学大学院修了。
日本木管コンクール第２位。フルートコンベンションコンクール第２位。
管打楽器コンクール第２位。NHK 交響楽団他、多数の客演首席を務める。
尚美ミュージックカレッジ非常勤講師。

クラリネット
櫻田はるか　Haruka SAKURADA

国立音楽大学卒業 。桐朋オーケストラアカデミー研修課程及び研究科修了後渡仏。ヴェルサイユ地方国立音楽院及びパリ 12 区立音楽院修了。現在、在京オーケストラ及び吹奏楽団に客演出演他、ソリスト、室内楽奏者として活動。足利市民会館専属室内オーケストラ、足利カンマーオーケスター団員。

ホルン
上間義之　Yoshiyuki UEMA

沖縄県出身。沖縄県立芸術大学卒業、桐朋学園大学研究科にて学ぶ。
ホルンを故 安原正幸氏に師事。 仙台フィルハーモニー管弦楽団を経て、
現在、東京交響楽団首席ホルン奏者。 洗足学園音楽大学非常勤講師。

打楽器
小原由紀　Yuki OHARA

東京音楽大学付属高等学校を経て、同大学卒業。東京音楽大学教職課程管弦楽・吹奏楽指導助手。これまでに、菅原淳、野口力、藤本隆文、岡田眞理子、藤本佳子の各氏に師事。

オーボエ
岡　北斗　Hokuto OKA

愛知県立芸術大学卒業。東京藝術大学大学院修士課程修了。ドイツ国立ロストック音楽・演劇大学にて国家演奏家資格を取得。現在、藝大フィルハーモニア・オーボエ奏者（東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師）。

ファゴット
大埜展男　Nobuo ONO

東京音楽大学を経て 1975 年東京藝術大学卒業。第 42 回日本音楽コンクール入選。ドイツ、ミュンヘンに留学。ソリスト、室内楽奏者としてドイツ各地で演奏。Kammermusiker の称号を受ける。1985 年より東京交響楽団入団。現在、玉川大学、東海大学各芸術学部にて後進の指導にあたっている。

トランペット
田中敏雄　Toshio TANAKA

94 年東京音楽大学卒業。トランペットを津堅直弘氏に師事。92 年にサンドポイント（米国）音楽際に参加し、室内楽を H. フィリップス氏、W. マルサリス氏の両氏に師事。在学中に関西フィルハーモニー管弦楽団に入団。現在、同団を経て読売日本交響楽団トランペット奏者、トウキョウモーツァルトプレイヤーズ、なぎさブラスゾリステン、
Mostly Trumpet『THE MOST』メンバー。上野学園大学非常勤講師。

オーケストラ・アフィア奏者

1st. ヴァイオリン
渡辺美穂　Miho WATANABE

名古屋市生まれ。2006 年から 2012 年まで東京フィルハーモニー交響楽団で 2nd. ヴァイオリン フォアシュピーラーを務め、2012 年 9 月より大阪フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。

1st. ヴァイオリン
能登谷安紀子　Akiko NOTOYA

東京藝術大学音楽学部ヴァイオリン専攻卒業。同大学院修了。ソロ、室内楽、オーケストラ演奏の他、弦楽アンサンブルや合唱指導、作曲活動等、幅広く活動。

1st. ヴァイオリン
服部亜希子　Akiko HATTORI

国立音楽大学ヴァイオリン専攻を首席で卒業、武岡賞受賞。読売新人演奏会出演。これまでに向田浩子、石橋洋子、三浦章宏の各氏に師事。

1st. ヴァイオリン
玄津　舞　Mai GENTSU

武蔵野音楽大学卒業。在学中、同大学管弦楽団コンサートマスターを務める。現在、フリー奏者として室内楽、オーケストラを中心に活動中。

1st. ヴァイオリン
濱田彰子　Shoko HAMADA

洗足学園音楽大学、同大学院修士課程器楽専攻を首席で卒業。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団団員、静岡県立沼津西高等学校芸術科非常勤講師。

2nd. ヴァイオリン
小池彩織　Saori KOIKE

桐朋学園大学首席卒業。同大学卒業演奏会、読売新人演奏会に出演。2010 年ソロリサイタルを開催。現在ソロ、室内楽、オーケストラと幅広く活動中。

2nd. ヴァイオリン
竹政大介　Daisuke TAKEMASA

愛媛県出身。洗足学園音楽大学音楽学部卒業。同大学大学院修了。全四国音楽コンクールにおいて、第 32 回最優秀賞受賞。
第 33 回、第 35 回優秀賞受賞。

ヴィオラ
鈴木勇人　Hayato SUZUKI

洗足学園音楽大学をヴァイオリンで首席卒業。その後、ヴィオラに転科。ヴァイオリンを西田博、三浦彰宏各氏、ヴィオラを岡田信夫氏に師事現在にいたる。

チェロ
小泉ユミ　Yumi KOIZUMI

桐朋学園大学音楽学部卒業。
オランダ、ズヴォーレ音楽院およびメシアンアカデミー修了。チェリスト兼声楽家。
ファンデーク音楽院主宰。

フルート
早坂美和子　Miwako HAYASAKA

Fl を大田哲弘氏、大平記子氏に師事。
M. ラリュー、D. フォルミザーノ、M. ツィーグラー各氏のマスタークラス受講。
元横浜 OMP オーケストラメンバー。

ファゴット
黒田紀子　Noriko KURODA

武蔵野音楽大学卒業。ファゴットを境野達男、岡崎耕治、S.Azzolini、P.Marono 各氏に、室内楽を山本正治氏に師事。現在はフリーのファゴット奏者として在京、地方のオーケストラ、吹奏楽、スタジオ収録などで活動中。

2nd. ヴァイオリン
栗山奈津　Natsu KURIYAMA

桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部卒業。現在、桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」非常勤講師。室内楽やアーティストのライブサポートなど多方面で活動。

2nd. ヴァイオリン
舘村　結　Yui TATEMURA

国立音楽大学卒業。国立音楽大学アドヴァンスト管弦楽コース修了。第 8 回日本演奏家コンクール弦楽器部門入選。徳永二男、三浦章宏、荒井雅至の各氏に師事。

ヴィオラ
鈴村大樹　Taiki SUZUMURA

3 歳よりヴァイオリンを始め 18 歳でヴィオラに転向。第 9 回東京音楽コンクール 3 位。
これまでに宮崎国際音楽祭、プロジェクトQ等のコンサートに出演。岡田伸夫氏に師事。

チェロ
渡辺靖子　Yasuko WATANABE

新潟市出身。新潟大学教育学部特音課程卒業、同大学院修士課程修了。英国王立ノーザン音楽院大学院修了。第 32 回新潟県音楽コンクール最優秀賞。トリオ・アルティカメンバー。
舘野英司、菅野博文、E・フェランド、
A・テイトの各氏に師事。

オーボエ
多田敦美　Atsumi TADA

愛知県立芸術大学卒業。東京藝術大学別科卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修了。日演連推薦新人演奏会にて札幌交響楽団と共演。
現在、フリー奏者として活動。寺岡稔、小畑善昭、オットー・ヴィンター、池田昭子各氏に師事。

ホルン
渡部奈津子　Natsuko WATANABE

鳥取県出身。大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コースを経て、洗足学園音楽大学大学院修士課程音楽研究科修了。
現在、広島交響楽団ホルン奏者。
Cor Ensemble VENUS メンバー。

2nd. ヴァイオリン
志摩かなえ　Kanae SHIMA

東京藝術大学音楽学部卒業。2001 年より横浜バロック室内合奏団団員。現在プロオーケストラやミュージカル、J-POP のライブなどでも活動中。

ヴィオラ
平野真生　Manao HIRANO

洗足学園音楽大学卒業。同大学院修士課程修了。ヴィオラスペース、GMMFS、小澤征爾音楽塾オペラプロジェクト、サイトウ・キネン・フェスティバル松本「子供のための音楽会」「青少年のためのオペラ」等参加。ヴィオラと室内楽を岡田伸夫、須田祥子の両氏に師事。

コントラバス
稲川永示　Eiji INAGAWA

岐阜県大垣市出身。桐朋学園付属高等学校を経て同大学を卒業。西田直文、溝入敬三各氏に師事。現代音楽の為の五重奏団『輪彩』メンバー。芸術集団『バベルの塔』を窪田翔氏と共に立ち上げる。 現在 NHK 交響楽団団員。

クラリネット
芳賀史徳　Fuminori HAGA

東京藝術大学音楽学部器楽科卒業後、渡仏。オーベルヴィリエ・ラ・クールヌーヴ地方国立音楽院卒業。現在、日本フィルハーモニー交響楽団クラリネット奏者。
洗足学園音楽大学非常勤講師。

トランペット
松下絵里　Eri MATSUSHITA

東京音楽大学卒業。トランペットを上田仁、津堅直弘、高橋敦、栃本浩規、A. アンリの各氏に師事。第 18 回浜松国際管楽器アカデミーにて G. ゾンマーハルダー氏に師事。第 84 回横浜新人演奏会に出演。東京ファンファーレオルケスト、トランペットアンサンブル「PETEN」メンバー。